

歴史探訪

クラブ

其の171

History Inquiry Club

文化財課 ☎ 22-1720
(博物館) FAX 22-2028

吉祥山泉福寺(その1)

吉祥山泉福寺は、天台宗の古刹で、市役所渥美支所から東南へ約3km、山田町谷太郎地内にあります。その本山は、長く最澄が開いた名刹比叡山延暦寺でしたが、江戸時代には徳川家の菩提寺でもあった東京上野の東叡山寛永寺となり、歴代の住職は、延暦寺や寛永寺の住職が兼務していました。

お寺は、渥美半島内では珍しく標高150mの深山幽谷の山中にあります。旧本堂背後(現在は北面)には、

巨大な岩壁を背負い、脇には湧水を備えた立地環境で、旧本堂の左に薬師堂、回廊に続いて庫裡、右に鐘楼と白山菊理媛社がありました。

昭和37年(1962)1月19日、庫裡から出火した火は瞬間に回廊・薬師堂・本堂へと燃え移り、秘仏であった三尊像(平安時代中・後期)をはじめ、多くの貴重な文化財が焼失しました。前立観音(現在の本尊…十二面観世音菩薩立像、鎌倉末期〜室町時代/市指定文化財)や不動明王、昭和33年に開帳されていた東海七福神(大黒天像)や鐘楼など、わずかなものが焼け残りました。現在の本堂は、昭和47年に研修会館、鐘楼の釣鐘とともに新築されたもので、その建設

に際しては、ふもとから境内まで通じる道路が開かれるなど、総工費約1億1500万円という大事業でした。

■泉福寺の創建

寺伝(渥美十左衛門古文書)によると、渥美氏の先祖渥美源五郎重国が開基となり、東大寺大仏殿建立のために諸国を勧進中の僧行基を迎えて、天平15年(743)年に創建。重国の娘の菊本が光明皇后のとりなしによって観音尼となつて観音山、今の泉福寺に入ったとされています。このことを裏づける遺物としては、市内大草町の大泉寺に中国六朝時代の「金銅誕生仏(閻浮檀金)」(現在は所在不明)が重国の親と称する渥美白水から伝えられたものとしてありました。また、重国の建てた泉福寺には、二つのわかれ寺があり、一つは山田町、もう一つは大草町にあつて両寺とも大泉寺と称しました。

泉福寺の創建については、いまだ謎が多く確かなことは分かりません。泉福寺が建てられたとされる天平15年、奈良時代の仏教寺院は、奈良東大寺に代表されるようにおおむね平坦な土地に伽藍形式で造られてお

●泉福寺旧伽藍図/御厨野文庫蔵



り、泉福寺のような山岳に造寺されたのは、その後の平安時代のあり方です。しかしながら、渥美氏の祖先が海人部・阿曇氏の子孫であったり、渡来人の子孫であったりすることも否定できず、渥美氏の祖先が氏族として山寺をもつていて、それが平安時代に天台宗泉福寺となった前身と考えることもできるのです。

泉福寺がいつごろ建てられたかは、さておき、渥美半島内(田原市内)でも歴史の古い寺院であることは確かです。その泉福寺は平安から鎌倉時代に大変な隆盛を極めていたと考えられますが、そのお話は次回(其の172号)に続きます。

(天野)